

2

具体的指導内容をイメージする

- 1 通級による指導の導入モデル・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2 自立活動の「個別の指導計画」の作成・・・・・・・・・・ 9
(実態把握から指導内容の決定まで)
- 3 授業展開・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
- 4 教室環境整備・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23
- 5 評価と単位認定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24
- 6 次年度の通級による指導に向けて・・・・・・・・・・・・・・ 26

1 通級による指導の導入モデル

高等学校で通級による指導を開始するまでの流れについて、中学校で通級による指導を受けてきた生徒を例に見てみましょう。

小・中学校で通級による指導を受けてきた「通級マリさん」が全日制普通科の伊達杜高等学校に入学することになりました。マリさん自身と保護者は高等学校でも通級による指導を受けることを希望しています。

ここでは伊達杜高等学校で通級による指導を開始するまでの流れを、マリさんの入学前と入学後に分けて説明します。



通級 マリさん

※マリさんの例はあくまでも一例ですので、生徒や学校の実態により異なる点があります。

入学前(3月)	合格発表	
	中学校からの引継ぎ (中学校訪問・電話等) ➡ <イメージ2>	1学年担当教員, 1学年主任 特別支援教育コーディネーター <input type="checkbox"/> 中学校での生徒の様子と支援の確認 <input type="checkbox"/> 個別の教育支援計画・個別の指導計画等の引継ぎ
	生徒・保護者からの相談 (入学予定者説明会) ※学校により「合格者説明会」「新入生予備登校」など名称は異なります。 ➡ <イメージ2>	教務主任, 特別支援教育コーディネーター <input type="checkbox"/> アンケート「高校生活を充実させるための調査」※を保護者に配布 ※宮城県総合教育センター 平成28年度長期研修 特別支援教育グループ研究成果物 <input type="checkbox"/> 通級による指導の説明 <input type="checkbox"/> リーフレットの配布 <input type="checkbox"/> 生徒・保護者との相談会(希望者)
	校内委員会の設置 ※伊達杜高等学校では既存の特別支援教育委員会の下部組織として、通級指導委員会を編成しました。 ➡ <イメージ3~4>	<特別支援教育委員会(既存の校内組織)> 校長, 教頭, 特別支援教育コーディネーター, 教務主任, 生徒指導主事, 通級指導担当教員, 養護教諭, ホームルーム担任, 学年主任等 <input type="checkbox"/> 役割の確認 <input type="checkbox"/> 引継ぎ事項の共有 <通級指導委員会> 教頭, 特別支援教育コーディネーター, 教務主任, 進路指導主事, 通級指導担当教員, ホームルーム担任, 学年主任
	入学式	教務主任, 特別支援教育コーディネーター <input type="checkbox"/> アンケートの回収 <input type="checkbox"/> 生徒・保護者との相談会(希望者)

1 中学校からの引継ぎ

伊達杜高等学校では、3月末の春休み期間に複数の教員で分担し、全ての合格者の出身中学校を訪問して生徒の情報の引継ぎを行いました。マリさんは高校入試の学力検査の際に、ルビ付き問題用紙の配慮申請を行って受験していたので、マリさんの出身中学校には特別支援教育コーディネーターも同行しました。

通級マリさんは入学試験の学力検査で配慮申請のあった生徒です。マリさんの学習や生活の様子、支援内容等について美田杜中学校から情報があるかもしれないので、特別支援教育コーディネーターも訪問に同行してください。



教頭

中学校の3学年主任から「マリさんは読み書き障害の診断を受けていること」「小・中学校において通級による指導を受けてきたこと」「個別の教育支援計画や個別の指導計画を引き継ぐことを保護者から同意を得ていること」等、話がありました。

引継ぎを終え、マリさんの学習面や生活面の様子、中学校が行った支援内容等を管理職に報告するとともに教務主任、1学年担当教員と情報を共有しました。

引継ぎ書類(例)

個別の教育支援計画 個別の指導計画 指導要録(入学以降) 等

引継ぎ事項(例)

学習の様子 生活の様子 中学校での支援内容 必要な合理的配慮 等

※ 個別の教育支援計画や個別の指導計画の引継ぎには保護者の同意が必要です。保護者から高等学校に提出される場合もあります。

2 本人・保護者からの相談(入学予定者説明会)

入学予定者説明会終了後、マリさんと保護者から相談の申し出があり、特別支援教育コーディネーターが話を聞きました。保護者からはマリさんが小学校4年生のときに読み書き障害の診断を受け、小・中学校において通級による指導を受けてきたこと、中学校で受けたような支援を高等学校でも受けさせてほしい等の相談がありました。マリさん本人からも、中学校の定期テストでは、ルビ付きの問題用紙を使っていたので、高校でも同様の配慮をしてほしいことや、通級による指導を受けて自分に合った学び方をもっと身に付けたいという訴えがありました。



通級 マリさん

私は読み書きが苦手です。中学校では通級による指導を受け、自分に合った読み書きの方法を学習してきました。高校は中学校より学習が更に難しくなるので、授業についていけるか心配です。できれば高校でも通級による指導を受けたいのですが…。

マリさんが高校生活を心配していることは分かりました。話してくれてありがとう。今後、マリさんが安心して学校生活を送ることができるように他の先生方とも相談して考えていきますね。またお話を聞かせてください。マリさんも気になることがあったら、また相談に来てください。



特別支援教育
コーディネーター

3 校内委員会の設置(引継ぎ事項の確認)

マリさんを組織的な支援につなげられるように校内委員会(通級指導委員会)を組織し、それぞれの役割を確認しました。その後、マリさんの出身中学校から引き継いだ個別の教育支援計画や個別の指導計画を基に、マリさんの実態や中学校で受けた支援について情報共有し、伊達杜高等学校でのマリさんの支援について検討しました。

～マリさんの中学校からの引継ぎ資料～

個別の教育支援計画

令和△年6月7日作成

〇〇市立美田中学校

学年・組 (担任名)	1年 1組 (〇〇 〇〇)	2年 1組 (〇〇 〇〇)	3年 2組 (〇〇 〇〇)
本人氏名	通級 マリ	性別	女
保護者氏名	通級 守	住所・TEL	宮城県××市△△△△△△1-4
諸 検 査	検査年月日	検査名	実施機関
	H30.〇.〇	WISC-IV	〇〇〇病院
検査結果	FSIQ××, VCIOO, PRI△△, WMICD, PSIOO		
行動や認知の特性・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・耳で聞いて理解する力が弱い。目で見て理解する力の方が優位であるが、標準程度である。 ・小学4年生のときに読み書き障害の診断を受けている。 ・穏やかな性格で特定の友達との関わりが多い。それ以外の友達に自分から進んで声を掛けることは少ない。 		
生活の様子	得意なこと 好きなこと	<ul style="list-style-type: none"> ・計算などのパターン化された学習。 ・美術で作品を作ること。 ・タブレット端末やパソコンを使用して文を書くこと。 	
	不得意なこと 苦手なこと	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字や英単語の読み書きが苦手。漢字は小学6年生程度、アルファベット4文字程度の英単語をおおむね理解している。 ・話を聞いて理解することが苦手である。周囲の様子を見てから行動することが多い。 ・板書に時間が掛かってしまう。 	
本人・保護者の願い	本人	<ul style="list-style-type: none"> ・志望校を決め、合格できるように受験勉強を頑張りたい。 ・英語の勉強が分かるようになりたい。 	
	保護者	<ul style="list-style-type: none"> ・受験勉強を頑張ってもらいたい。 ・必要な支援を受けながら、希望する学校を受験できるようにしてほしい。 	
具体的な支援	家庭	学校	医療・その他関係機関
	<ul style="list-style-type: none"> ・一緒に新聞を読む機会を設けて、読めない漢字があったら読み方を教える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・通級による指導を週1回行う。 ・指示は可視化する。 ・読めない漢字や英単語があったら読み方を教える。 	
合理的配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・定期テストは、ルビ付き用紙を使用できるようにする。 ・教室の座席は前方にし、集中して授業を受けられるようにする。 		



特別支援教育
コーディネーター

マリさんは、読み書き障害の診断を受けており、中学校では週1回程度、通級指導教室で指導を受けていました。先日の入学予定者説明会では、高校での学習面について心配であるという相談がありました。

マリさんは、高校入試の学力検査でルビ付き問題用紙の配慮申請を行って受験しています。定期考査でも同様の支援を受けることを本人は希望しています。マリさんの合理的配慮についても検討する必要があるそうですね。



教務主任

個別の指導計画

令和〇年2月7日作成

学年・組	生徒氏名	作成者	学級担任
3年 1組	通級 マリ	森村 ミユ	清水 よしひこ

本人・保護者の願い	生徒:希望する高校に合格できるように勉強を頑張りたい。 保護者:受験勉強を頑張ってもらいたい。必要な支援を受けながら、希望する学校を受験できるようにしてほしい。		
年間指導目標	<ul style="list-style-type: none"> 自分に合った学び方を習得し、小学校6年生程度の漢字を用いて、文を書くことができる。 自分に合った学び方を習得し、4文字程度の英単語を正しく用いて、文を書くことができる。 		
	前期	後期	
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の構成要素を意識しながら、漢字を正しく用いて、短文を作ることができる。 アルファベットの順番を意識しながら4文字程度の英単語を理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 文を聞き取り、習得した漢字を正しく用いて書くことができる。 習得した英単語を用いて、「文頭は大文字」「単語の間のスペース」等、正しいルールで英文を書く。 	
通級指導教室での指導内容	<ul style="list-style-type: none"> 漢字を部品ごとに分解して細部まで見たり、部品を組み合わせて書いたりできるようにする。 タブレット端末を活用し、同音異義語に注意しながら、短文を作成できるようにする。 アルファベットカードを使って英単語を正しく並べられるようにする。また、絵カードやタブレット端末を活用し、英単語を意味や発音と結び付けながら理解できるようにする。 覚えた英単語を用いて短文を作ることができるようにする。 週1時間の指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 前期の学習を継続し、漢字や英単語の語彙を増やすことができるようにする。 同音異義語に注意しながら聞き取り、タブレット端末を活用し、文を作成できるようにする。 作成した単語カードを使って、正しい語順で英文を書くことができるようにする。 英文を書くときのルールをまとめた学習カードを活用し、ルールを確認しながら正しい英文を書く。 週1時間の指導を行う。 	
通常の学級での指導内容 又は、配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> 単元が始まる前に、教科書の読めない漢字や英単語の読み方を教えて本人がルビを振るようになる。 教室の座席は前方にし、集中して授業を受けられるようにする。 板書は重要ポイントのみノートに書き写し、授業内容に集中できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元が始まる前に、教科書の読めない漢字や英単語の読み方を教えて本人がルビを振るようになる。 教室の座席は前方にし、集中して授業を受けられるようにする。 板書は重要ポイントのみノートに書き写し、授業内容に集中できるようにする。 	
評価	通級指導教室	<ul style="list-style-type: none"> 漢字を部品として学習することで、部品と既習の漢字を組み合わせ、6年生の漢字を40字程度正しく書くことができた。 英単語の学習では「bとd」「nとh」など形が似ているアルファベットに注意しながら、4文字程度の単語を30個程度覚えることができた。 単語カードを正しく並べて英文を作ることができた。 	
	通常の学級	<ul style="list-style-type: none"> 国語の音読では、読み間違いが減り、聞き取りやすくなるようになった。 自作の単語カードを使って、分からない単語を調べたり、文を書いたりするようになった。 	
次年度に向けて	本人が高等学校でも必要な支援や指導を継続して受けられるよう、引継ぎを確実にを行う。		

マリさんは漢字や英単語を書くことが苦手なようですが、タブレットやパソコンを活用することで、学習を効果的に行ってきたようです。高校でもICTを活用することで、マリさんの学習や生活を支えることができるかもしれません。



通級指導担当教員

マリさんの入学後の様子をホームルーム担任だけでなく、教科担任や部活動の顧問など、情報を共有して、必要な支援を検討していきましょう。



教頭

マリさんの例のように入学前に支援を必要とする生徒について把握することで、個に応じた有効な支援を継続して行うことができます。中学校は本人と保護者の同意が得られれば、生徒の情報を入学前に高等学校に提供することができます。中学校訪問や入学予定者説明会等で、支援を必要とする生徒に関する情報が得られた場合には、学年で情報の共有を図るとともに、特別支援教育コーディネーター等に情報を集約することで、組織的かつスムーズな支援につなげることができます。

なお、生徒が入学した後に支援を必要とすることが分かる場合もあります。

<p>生徒の情報共有</p>	<p><職員会議> 全教職員</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 中学校訪問や入学予定者説明会で得た情報を全教職員で共有 <input type="checkbox"/> 通級による指導について周知(校内研修※) <p>※「第6章すぐに活用できる資料」の校内研修用スライドを使用して実施</p>
<p>生徒の実態把握</p> <p>➡ <イメージ6～7></p>	<p>ホームルーム担任, 特別支援教育コーディネーター, 通級指導担当教員, 教科担任等</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 教科担任等にチェックリスト・記入用紙の配布 <input type="checkbox"/> 集まった情報の集約
<p>保護者との面談</p> <p>※4月のPTA総会等, 保護者が来校する機会を使って実施</p>	<p>ホームルーム担任, 特別支援教育コーディネーター, 通級指導担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 入学前に行ったアンケートの結果を基に, 保護者の心配していること等の聞き取り <input type="checkbox"/> 通級による指導の説明(保護者リーフレット) <input type="checkbox"/> 「通級による指導」実施の同意書を配布
<p>生徒用アンケートの実施</p> <p>※学校生活に慣れた頃に新入生全員を対象に実施</p>	<p>ホームルーム担任, 特別支援教育コーディネーター, 通級指導担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> アンケート「MYアシストシート」※を実施し, 学校生活を送る上で不安に感じていることを把握 <p>※宮城県総合教育センター 平成28年度長期研修 特別支援教育グループ研究成果物</p>
<p>生徒との個別面談</p> <p>※学校生活に慣れた頃に新入生全員を対象に実施</p>	<p>ホームルーム担任, 特別支援教育コーディネーター, 通級指導担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> アンケートや実態把握した結果を基に, 話の聞き取り(担任) <input type="checkbox"/> 通級による指導について説明及び相談(特別支援教育コーディネーター, 通級指導担当教員)
<p>通級による指導の実施について検討・決定</p>	<p><特別支援教育委員会> 校長, 教頭, 特別支援教育コーディネーター, 教務主任, 生徒指導主事, 通級指導担当教員, 養護教諭, ホームルーム担任, 学年主任等</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 情報収集したものを基に通級による指導の必要性について検討
<p>特別の教育課程の編成</p> <p>➡ <イメージ7～8></p>	<p><通級指導委員会> 教頭, 特別支援教育コーディネーター, 教務主任, 進路指導主事, 通級指導担当教員, ホームルーム担任, 学年主任</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 特別の教育課程の原案を作成
<p>通級による指導の対象生徒の決定</p> <p>➡ <イメージ8></p>	<p><職員会議> 全教職員</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 通級による指導の実施について協議・決定(校長)

4 生徒の実態把握

新入生が学校生活に慣れた5～6月頃、マリさんの学校生活の様子を把握することにしました。特別支援教育コーディネーターがホームルーム担任や各教科担任、部活動顧問等、マリさんに関わる教職員に『特別な教育的支援を必要とする児童生徒のチェックリスト』を配布し、マリさんの学習面、行動面についてチェックをしてもらいました。その他気になることがある場合は、具体的に記述してもらい、回収した情報を『情報収集シート』にまとめました。

◇チェックリスト A 学習面(「聞く」「話す」「読む」「書く」「計算する」「推論する」)

	観 点	レベル			
		ない 0点	まれにある 1点	時々ある 2点	よくある 3点
聞 く	1 聞き間違いがある(「知った」「行った」と聞き間違える)			2	
	2 聞き間違いがある				3
	3 個別に言われると聞き取れるが、集団場面では難しい				3
	4 指示の理解が難しい				3
話 す	5 話し合いが難しい(話し合いの流れが理解できず、ついていけない)			2	
	6 適切な速さで話すことが難しい(たどたどしく話す、とても早口である)	0			
	7 ことばにつまったりする	0			
	8 単語を羅列したり、短い文で内容的に乏しい話をする	0			
	9 思いつくままに話すなど、筋道の通った話をするのが難しい	0			
読 む	10 内容をわかりやすく伝えることが難しい	0			
	11 初めて出てきた語や音読あまり読まない語などを読み間違える				3
	12 文中の語句や行を抜かしたり、または繰り返しまだ読んでいる			2	
	13 音読が遅い				3
書 く	14 勝手読みがある(「いきました」「いきました」と読む)			2	
	15 文章の要点を正しく読みとめることが難しい			2	
	16 読みとく字を書く(字の形や大きさが整っていない、まっすぐに書けない)			2	
	17 独特の筆順で書く		1		
	18 漢字の細かい部分を書き間違える				3
計 算	19 句読点が抜けたり、正しく打つことができない	0			
	20 閉られた量の作文や、決まったパターンの文章が書かない	0			
	21 学年相応の数の意味や表し方についての理解が難しい(三千四百七十七を300047や347と書く、分母の大きい方が分数の値として大きいと認めている)	0			
	22 簡単な計算が暗算でできない	0			
	23 計算をするのにとても時間がかかる	0			
推 論	24 答えを得るのにいくつかの手続きを要する問題を解くのが難しい(四角形の計算、2つの立式を必要とする計算)	0			
	25 学年相応の文章題を解くのが難しい				3
	26 学年相応の量を比較することや、量を表す単位を理解することが難しい(長さやかさの比較、「15cmは150mm」ということ)	0			
	27 学年相応の図形を描くことが難しい(丸やひし形などの図形の描写、見取り図や展開図)	0			
	28 事物の因果関係を理解することが難しい	0			
計 算	29 目的に沿って行動を計画し、必要に応じてそれを修正することが難しい	0			
	30 早合点や、飛躍した考えをする		1		
	段階別の点数(評価点×該当数)	0点①	2点②	12点③	21点④
総合計 (①+②+③+④)		35点			

◎6つの領域の内、少なくとも一つつの領域で合計12点以上をカウントした場合、学習面に問題があると思われる。

◇チェックリスト C 行動面(「対人関係やこだわり等」)

	観 点	レベル		
		いい 0点	多少 1点	はい 2点
1 大人びている、ませている		0		
2 みんなから、「〇〇博士」「〇〇教授」と思われている(例:カレンダー博士)		0		
3 他の子どもが興味を持たないようなことに興味があり、「自分だけの知識世界」を持っている		0		
4 特定の分野の知識を書いているが、丸暗記であり、意味をきちんと理解していない		0		
5 含みのある言葉や構みを言われても分からず、言葉通りに受けとめてしまうことがある		0		
6 会話の仕方が形式的であり、抑揚なく話したり、問合いが取れないことがある		0		
7 言葉を組み合わせ、自分だけにしか分からないような通話を創作する		0		
8 独特な声で話すことがある		0		
9 誰かに何かを伝える目的がなくても、場面に関係なく声を出す(例:席を譲らず、黙込み、機を落とす、叫ぶ)		0		
10 とても得意なことがある一方で、極端に不得手なものがある		0		
11 色々なことを話すが、その時の場面や相手の感情や立場を理解しない		0		
12 共感性が乏しい		0		
13 周りの人が困惑するようなことも、配慮しないで言ってしまう		0		
14 独特な目つきをすることがある		0		
15 友達と仲良くしたいという気持ちはあるけれど、友達関係をうまく築けない		0		
16 友達のそばにはいるが、一人で遊んでいる		0		
17 仲の良い友人がいない		0		
18 常識が乏しい		0		
19 球技やゲームをする時、仲間と協力することに考えが及ばない		0		
20 動作やジェスチャーが不器用で、ぎこちないことがある		0		
21 意図的でなく、顔や体を動かすことがある		0		
22 ある行動や考えに強くこだわることによって、簡単な日常の活動ができなくなることもある		0		
23 自分なりの独特な日課や手順があり、変更や変化を嫌がる		0		
24 特定な物に執着がある		0		
25 他の子どもたちから、いじめられることがある		0		
26 独特な表情をしていることがある		0		
27 独特な姿勢をしていることがある		0		
段階別の点数(評価点×該当数)		0点①	点②	点③
総合計 (①+②+③)		0点		

◎ 合計22点以上をカウントした場合、対人関係やこだわり等の問題があると思われる。

◇チェックリスト B 行動面(「不注意」「多動性-衝動性」)

	観 点	レベル				領域ごとの合計
		ない 0点	時々ある 0点	しばしばある 1点	いつもある 1点	
不 注 意	1 学校での勉強で、細かいところまで注意を払わなかったり、不注意な間違いをしつたりする				1	1点
	2 課題や遊びの活動で注意を集中し続けることが難しい					
	3 前と向かって話しかけられているのに、聞いていないようにみえる					
	4 指示に従えず、また仕事を最後までやり遂げない					
	5 学習課題や活動を順序立てて行うことが難しい					
	6 集中して努力を続けなければならない課題(学校の勉強や宿題など)を避ける					
	7 学習課題や活動に必要な物をなくしてしまう					
	8 気が散りやすい					
	9 日々の活動で忘れっぽい		1			
多 動 性	10 手足をそわそわ動かしたり、着席していても、もじもじしたりする					1点
	11 授業中や座っているべき時に席を離れてしまう					
	12 きちんとしていなければならない時に、過度に走り回ったりよじ登ったりする					
	13 遊びや余暇活動に大人しく参加することが難しい					
	14 じっとしていない、または何かに振り立てられるように活動する					
	15 過度にしゃべる					
	16 質問が終わらない内にしつこく答えを言う					
	17 順番を待つのが難しい					
	18 他の人がしていることをささげたり、じゃましたりする					
段階別の点数(評価点×該当数)		点①	1点②	点③	1点④	
総合計 (①+②+③+④)		2点				

※①②を0点に、③④を1点にして計算する。

※少なくとも一つつの領域で合計6点以上をカウントした場合「不注意」「多動性-衝動性」に問題があると思われる。

※ときとさきある「しばしばある」等の観点は、程度差を示す。

『特別な教育的支援を必要とする児童生徒のチェックリスト』は宮城県教育委員会 特別支援教育課ホームページや宮城県総合教育センターのホームページ(令和元年度長期研修 特別支援教育グループ研究成果物)からダウンロードができます。

複数の教員で生徒の実態を捉えることが大切です。



特別支援教育
コーディネーター

通級による指導 情報収集の実施について

○月 △日 担当(林)

(1年 C 組 通級マリ)さんについて、通級による指導を行うために、学校生活の様子について情報を収集しています。チェックリストの記入をお願いします。また、具体的な様子やその他、気になる事項がありましたら下に記入してください。よろしくをお願いします。

担当教科・科目() 記入者()

できていること 得意なこと	
できていないこと 苦手なこと	
その他	

通級による指導 情報収集シート ㊟

令和〇年5月20日

年	組	氏 名	ホームルーム担任	通級指導担当	特別支援教育 コーディネーター
1	C	通級 マリ	林	松本	山田

教科等	担当者	できていること, 得意なこと	できていないこと, 苦手なこと
国語総合	佐藤	・分からない漢字にルビを振ったり, 長い文章には/を引いて区切ったりと, 自分で読みやすいよう工夫している。	・形の似た漢字の読み間違いがみられる。 ・文章表現に平仮名が多く, 形の似た漢字に書き間違いがある。
世界史 A	鈴木		・板書を写すことに時間が掛かる。 ・授業では図や表から分かったことを発表できるが, 小テストでは書くことができない。
数学 I	高橋	・個別に目の前で解き方を示すと, 因数分解することができた。	・因数分解では「b」と「d」を見間違えたミスをしてしまうことがある。 ・文章問題が苦手である。
化学基礎	田中		・元素記号に間違いが多い。
生物基礎	伊藤	・教科書の写真を見ながら, 細胞の構造を丁寧にスケッチすることができる。	・板書を写すことに時間が掛かる。漢字を間違えて書いていることがある。
体育(保健)	渡辺	・順番を待っている間, 友達の動きを集中して見ていた。自分の番が来ると上手にハードルを跳ぶことができていた。	・ノートを確認すると, 途中までしか書かれていない。(保健)
美術 I	山本	・静物画では, 時間が掛かるが丁寧に作品を仕上げていた。	
コミュニケーション 英語 I	中村		・英単語を発音のとおりローマ字読みで書いてしまうことがある。 ・英文の読解が苦手である。
家庭総合	小林	・完成図や説明書の図を見て, エプロンを完成することができた。	
社会と情報 総合的な探究 の時間	加藤 林	・パソコン, タブレットの操作に慣れている。	・教師の指示の後, 周囲の様子を見てから活動に取り組み始める。
学級での様子	林	・遅刻や欠席をすることはない。 ・身だしなみが整っている。	・教科担当から課題の提出が遅くなることが多いと指摘がある。
保健室	佐々木	・時々, 昼休みに頭が痛いとき来室する。熱はなく, 睡眠時間や食事について訪ねると丁寧な言葉遣いで答える。少し話をすると, 授業が始まる前に自分から教室に戻る。	
部活動 (美術部)	山口	・休まず部活動に参加し, 時間いっぱい集中して絵を描いている。 ・同じ部活の友達数名と趣味の話を楽しむ様子が見られる。	

5 特別の教育課程の編成

通級による指導を開始する前に、通級マリさんの特別の教育課程を編成する必要があります。通常の教育課程に、障害に応じた特別の指導をどのように位置付けるかを通級指導委員会で検討し、原案を作成しました。

① 伊達杜高等学校の1年生の教育課程(必履修科目はオレンジで表示)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
1 年 次	国語総合				現代社会		数学Ⅰ			化学基礎		生物基礎		体育		保健		音楽Ⅰ 美術Ⅰ		コミュニケーション 英語Ⅰ			家庭基礎		社会と 情報		探検・体験 活動の時間	L H R		

② マリさんの特別の教育課程

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
1 年 次	国語総合				現代社会		数学Ⅰ			化学基礎		生物基礎		体育		保健		音楽Ⅰ 美術Ⅰ		コミュニケーション 英語Ⅰ			家庭基礎		社会と 情報		探検・体験 活動の時間	特別の指導 時間	L H R		



教務主任

本校の1年生の教育課程は①のように必履修教科・科目で編成されているので、通級による指導を通常の教育課程に「替えて」行うことはできません。夏休み明けから放課後に週2回実施する場合、マリさんの特別の教育課程は②のようになります。今年度中に35単位時間を実施し、目標に達すれば1単位修得することができます。

中学生のとき、マリさんの通級による指導は週1回でしたので、本人の負担になりそうです。夏休み前に週1回、放課後に試しに行うことが必要かと思われます。



通級指導担当教員



特別支援教育
コーディネーター

その場合、通級による指導を放課後に行うことになるので、部活動などに支障が出るかもしれませんが…。

マリさんは美術部に所属しています。美術部は週2回活動をしているので、部活動のない日でしたら通級による指導を行うことができますと思います。マリさんや保護者と相談してみます。



ホームルーム
担任



教 頭

それでは、マリさんと保護者の同意が得られた場合、②の特別の教育課程で進めていきましょう。今後、手続きを踏んで校長先生にマリさんの特別の教育課程を決定していただきましょう。

通級による指導を通常の教育課程に「加える」場合、他の生徒が部活動等を行っている放課後に別室で学習することに抵抗感のある生徒がいると思われます。また、選択教科・科目に「替える」場合は学級全員が受ける授業に一人だけ別の授業を受けることに抵抗感のある生徒もいると思われます。「加える」場合、「替える」場合、それぞれにおいて生徒の自尊感情に配慮して通級による指導を行う必要があります。

6 通級による指導開始の決定

マリさんの通級による指導について、職員会議で協議しました。教職員からマリさんの通級による指導の必要性について理解が得られ、校長は通級による指導を実施することを認めました。



校 長

マリさんにとって読み書きの困難さに応じた指導が必要であることを全教職員で共有できました。1年C組の通級マリさんの特別の教育課程及び通級による指導の実施を認めます。通級指導担当教員だけでなく、校内支援体制を整備し、学校全体で取り組んでいきましょう。

2 具体的指導内容をイメージする

2

自立活動の「個別の指導計画」の作成

教職員から収集した情報や中学校から引き継いだ個別の教育支援計画や個別の指導計画を基に話し合いを行い、マリさんの自立活動の「個別の指導計画」を作成します。伊達杜高等学校では、個別の指導計画の様式を以下のように作成しました。

具体的指導内容をイメージする

自立活動の「個別の指導計画」

伊達杜高等学校

学年・番号	生徒氏名	ホームルーム担任	作成者
1年 C組 27番	通級 マリ	林	松本, 吉田
作成日	前期評価日	後期・学年末評価日	
令和 年 月 日	令和 年 月 日	令和 年 月 日	

生徒の願い	在学中	学校生活や卒業後の希望等、生徒と保護者それぞれの願いを記載します。個別面談等を通して生徒や保護者の願いを把握し、それも踏まえて指導内容を設定します。
	卒業後	
保護者の願い	在学中	
	卒業後	
伸ばしたいこと 改善したいこと	生徒の実態について記載します。学習上や生活上の困難だけでなく、生徒の強みや長所等についても記載します。	

年間指導目標	1年間で目指す姿を年間指導目標として設定します。
--------	--------------------------

	1 健康の保持	2 心理的な安定	3 人間関係の形成	4 環境の把握	5 身体の動き	6 コミュニケーション
指導項目	年間指導目標を達成するために自立活動の内容6区分27項目から必要な項目を選定します。					

通級指導教室での指導内容	選定した指導項目同士を関連付けて具体的な指導内容を設定します。生徒が主体的に学習課題に取り組み、成就感を味わうことができますようにします。
学級における配慮事項	通級による指導と関連付けながら学級における配慮事項について記載します。

		前期	後期
評価	指導目標	<p>年間指導目標を基に学期ごとに目指す姿を短期の指導目標として設定します。長期的な観点に立った指導目標とともに、短期的な観点に立った指導目標を定めることが自立活動の指導の効果を高めることにつながります。</p>	
	通級指導教室	<p>学期の終了後、指導目標に対する評価を生徒の様子の変容や成長を踏まえて記載します。指導目標や指導内容が適切であったかを振り返り、後期の指導目標と指導内容を設定します。</p>	
	通常の学級	<p>通級指導教室以外の場における評価を記載します。</p>	
年間評価		<p>年間指導目標に対する評価を記載します。</p>	
出席状況	出席 時間 / 授業時数 時間	出席 時間 / 授業時数 時間	出席 時間 / 授業時数 時間
	出席 時間 / 授業時数 時間		
次年度に向けて	<p>次年度への引継ぎ事項を記載します。</p>		

(1)実態把握の段階(流れ図①～流れ図②-3)

流れ図① 実態把握のために必要な情報を収集する段階

マリさんの実態を把握するために必要な情報を収集します。これまで5月に行った「特別な教育的支援を必要とする児童生徒のチェックリスト」や「情報収集シート」〈イメージ6～7〉,マリさんの出身中学校から引き継いだ「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」〈イメージ3～4〉を参考にします。これらの書類から、障害の状態、発達や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中で見られる長所やよき、課題等についての情報を収集します。

流れ図②-1 収集した情報を自立活動の区分に即して整理する段階

「特別な教育的支援を必要とする児童生徒のチェックリスト」や「情報収集シート」を使って教職員から集めた生徒の情報を整理します。生徒のできることでできないことを自立活動の6区分27項目〈理解12～13〉に即して整理しました。6区分で示しているのは障害名のみで判断して特定の指導内容に偏ることがないように、生徒の全体像を捉えて整理するためです。どの区分にも属さない情報は、その他の欄に記入します。



特別支援教育
コーディネーター

情報収集シートにまとめた情報を、自立活動の6区分に即して分けてみましょう。国語総合では分からない漢字にルビを振ったり、長い文章にスラッシュ(/)を引いて区切ったりして読んでいます。漢字や文章を正しく読むことができるように工夫しているので、「4 環境の把握」の(2)感覚や認知の特性についての理解と対応に関することに関連していると思われます。

「4 環境の把握」にも関連していると思いますが、マリさん自身が読み書きの困難さについて理解し、学びやすいよう工夫しているので「1 健康の保持」の(4)障害の特性の理解と生活環境の調整に関することに関連していると思いました。



通級指導担当教員



ホームルーム
担任

情報が一つの区分だけに該当するとは限らないのですね。養護教諭から「時々、休み時間に頭が痛い」と保健室に来室している。」との情報があるのですが、体調面なので「1 健康の保持」に関係がありそうですが、「熱もなく、少し話をする」と教室に戻っていくので、「2 心理的な安定」により関連していると思います。

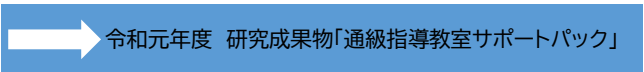
私も同じように思いました。「特別な教育的支援を必要とする児童生徒のチェックリスト」を見てみますと、「チェックリストA学習面」の「個別に言われると聞き取れるが、集団場面では難しい」と「漢字の細かい部分を書き間違える」をチェックした先生が多いようです。「チェックリストC行動面」は全ての項目にチェックがありませんでした。対人関係やこだわり等の困難は見られないようです。



特別支援教育
コーディネーター

6区分	1 健康の保持	2 心理的な安定	3 人間関係の形成	4 環境の把握	5 身体の動き	6 コミュニケーション
区分の説明	生命を維持し、日常生活を行うために必要な健康状態の維持・改善を身体的な側面を中心として図る観点	自分の気持ちや情緒をコントロールして変化する状況に適切に対応するとともに、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服する意欲の向上を図り、自己のよさに気付く観点	自他の理解を深め、対人関係を円滑にし、集団参加の基盤を培う観点	感覚を有効に活用し、空間や時間などの概念を手掛かりとして、周囲の状況を把握したり、環境と自己との関係を理解したりして、的確に判断し、行動できるようにする観点	日常生活や作業に必要な基本動作を習得し、生活の中で適切な身体の動きができるようにする観点	場や相手に応じて、コミュニケーションを円滑に行うことができるようにする観点
できること	<ul style="list-style-type: none"> 教科書にルビを振ったり、長い文章にスラッシュ(/)を引いて区切ったりと、読みやすいよう工夫している。 生活リズムが整っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業が始まる前に教室に戻る。 		<ul style="list-style-type: none"> 写真や実物を見ながら丁寧にスケッチすることができる。 完成図や説明書を確認しながら、エプロンを完成することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> パソコンやタブレット端末の操作に慣れている。 友達の動きを模倣し、三段跳びをすることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 同じ部活の友達数名と趣味の話を楽しむことができる。 教師の質問に丁寧な言葉遣いで答える。
できないこと	<ul style="list-style-type: none"> 教科担任から課題の提出が遅くなるという指摘がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章を書く時、分かっている漢字も平仮名で書いてしまう。 教師の指示の後、周囲の様子を見てから活動に取り組み始める。 時々、頭が痛いと言って休み時間に保健室に来室する。 		<ul style="list-style-type: none"> 個別の指示は聞き取れるが、一斉の指示を理解することは難しい。 形の似た漢字の読み書きを間違える。 英単語をローマ字読みで書いてしまう。 文章問題が苦手である。 板書の書き写しに時間が掛かる。 		
その他	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻や欠席はない。 部活動(美術部)に休まず参加し、集中して絵を描いている。 					

※「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編」第6章に示された6区分27項目の解説について詳しく知りたい場合は、令和元年度専門研究特別支援教育研究グループの研究成果物「通級指導教室サポートパック」をご覧ください。



流れ図②-2 収集した情報を学習上又は生活上の困難やこれまでの学習状況の視点から整理する段階

学習上又は生活上の困難の視点、これまでの学習状況の視点といった、②-1とは別の視点で情報を整理します。中学校からの引継ぎ事項や生徒や保護者の願いも記入しながら情報を整理していきます。学習上又は生活上の困難だけではなく、既にできていることや支援があればできること等からも考えてみましょう。



ホームルーム
担任

マリさんの保護者とは4月末のPTA総会の後に高校生活や卒業後について話をすることができました。5月下旬にマリさんと個別に話をすると、「高校生活に少しずつ慣れてきたが、授業の進み方が中学校より早く、内容も難しいと感じている。頑張って勉強についていきたい」と言っていました。

マリさんは集団場面で指示を聞いて理解することは難しいようですが、完成図などを見て作品を完成させることは比較的得意なようです。



特別支援教育
コーディネーター

中学校からの 引き継ぎ事項	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校4年生のときに読み書き障害の診断を受けている。 ・耳で聞いて理解する力が弱い。目で見て理解する力の方が優位であるが、標準程度である。 ・漢字の読み書きは小学校6年生程度、アルファベット4文字程度の英単語を理解している。 ・単元の学習が始まる前に教師の支援を受け、読めない漢字や英単語にルビを振る。 ・定期テストはルビ付きの用紙を使用していた。 ・教室の座席は前方にし、集中して授業を受けられるようにしていた。 ・特定の友達との関わりが多い。それ以外の友達に自分から進んで声を掛けることは少ない。
在学中の 生徒の願い 保護者の願い	<p>本人：高校生活に慣れ、勉強したり友達をつくったりしながら成長したい。</p> <p>保護者：新しい環境に慣れ、楽しく学校生活を過ごしてほしい。</p>
収集した情報 の整理	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校で指導を受けた学習方法を生かし、教科書の分からない漢字にルビを振る等、自分で読みやすいように工夫することができる。 ・形の似た漢字やアルファベットに間違いが多い。 ・分かっている漢字も平仮名で文章を書いてしまう。 ・英単語を発音のとおりローマ字で書いてしまうことがある。 ・個別の指示は聞き取れるが、一斉の指示を理解することは難しい。 ・教師の指示の後、周囲の様子を見てから活動に取り組む。 ・実物や教科書の写真を見ながら丁寧にスケッチすることができる。 ・完成図や説明書の図を確認してエプロンを完成することができる。 ・板書の書き写しに時間が掛かる。 ・課題の提出が遅れることが多い。 ・頭痛を訴えて保健室に来室し、養護教諭と話をすることが時々ある。 ・教師の質問に丁寧な言葉遣いで答えることができる。 ・同じ部活の友達と趣味の話を楽しむことができる。

流れ図②-3 収集した情報を〇年後の姿の観点から整理する段階

生徒の生活年齢や学校で学ぶことのできる残りの年数を視野に入れて整理します。その際にマリさん本人や保護者の将来の希望を踏まえ、マリさんの卒業後の姿をイメージし、卒業までにどのような力を、どこまで育てるとよいかを検討します。

卒業後の 生徒の希望 保護者の希望	<p>生徒：デザイン関係の仕事とパティシエに興味があるが、まだ悩んでいる。</p> <p>保護者：本人に合った職業や進学先を決定してほしい。</p>
〇年先の姿の 観点から整理	<ul style="list-style-type: none"> ・本人に合った学び方で漢字や英単語を少しずつ覚えていくことで、学習全般における理解へとつなげていけると考える。 ・タブレット端末を活用しながら学習することで書くことへの抵抗感を減らすとともに、社会に出ても活用できる力を身に付けさせる。

(2) 指導すべき課題の整理(流れ図③～流れ図⑤)

流れ図③ 指導すべき課題の抽出と背景要因の検討

①から②-3で整理した情報の中から課題となることを抽出します。その際、マリさんの抱える課題には様々な要因が隠れていると考え、そこに目を向けてみましょう。



特別支援教育
コーディネーター

マリさんは形の似た漢字に書き間違いが多いですが、絵や実物を正しくスケッチすることができるので、書くことの不器用さはないように思われます。もしかしたら漢字の細部まで注意して見ていないのかもしれないですね。

私もそう思います。他にも、漢字や英単語の読み方や書き方をなかなか覚えられないといった記憶の弱さもあるのではないかと思います。



通級指導担当教員

指導すべき課題	<ul style="list-style-type: none"> ・個別に目の前で解き方を示すと、因数分解することができた。 ・教師の指示の後、周囲の様子を見てから活動に取り組み始める。 ・完成図や説明書の図を確認しながら、エプロンを完成することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・形の似た漢字に書き間違いが多い。 ・英単語を発音のとおりローマ字読みで書いてしまうことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章表記に平仮名が多い。 ・英文の内容の理解が難しい。 ・文章問題が苦手である。
背景要因	<ul style="list-style-type: none"> ・聞いた言葉をなかなか覚えられず、一斉指導での説明では理解できないのではないかな。 ・説明を聞くより、完成図や手本を見ると理解することができるのではないかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字や英単語を全体像として捉えているが細部まで注意が届いていないのではないかな。 ・文字の形を覚えることが苦手なのではないかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の間違いを恐れているのではないかな。 ・覚えている漢字や英単語が少ないため、漢字を用いて文章を書いたり、内容を正しく読み取ったりすることができていないのではないかな。

流れ図④ 生徒の強みや長所の抽出

生徒の強みや長所について抽出します。背景要因や強みにも目を向けることが、生徒の困難を改善していくための指導内容を考えるヒントになります。

生徒の強みや長所	<ul style="list-style-type: none"> ・習得した学び方を生かして学習に取り組むことができる。 ・友達の動きを模倣したり、完成図等を見て製作したりすることができる。 ・パソコンやタブレット端末の基本的な操作に慣れている。
----------	--

流れ図⑤ 中心的な課題の設定

③で抽出した指導すべき課題同士がどのように関連しているのかを整理し、中心的な課題を導き出します。中心的な課題とは、その生徒の課題の根本となるものです。

中心的な課題	<ul style="list-style-type: none"> ・全体の中から注目すべき場所を選択して見るができるようになる。(心・環) ・学習に使用する漢字や英単語を理解し、語彙を増やす。(健・心・環) ・自分に合った学び方を習得し、漢字や英単語を正しく使って文章を読み書きすることができる。(健・心・環)
--------	--

(3) 年間指導目標の設定から具体的指導内容の設定(流れ図⑥～流れ図⑨)

流れ図⑥ 年間指導目標の設定

⑤で設定した中心的課題に基づいて指導目標を設定します。年間指導目標は、自立活動の「個別の指導計画」に記載されるとともに、学期ごとの指導目標を決める際のもとなるものです。年間指導目標のような長期的な目標や、学期ごとの短期的な目標を定めることが、自立活動の指導の効果を高めることにつながります。

年間指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自分に合った学び方を習得し、中学校1年生程度の漢字、綴りの似た英単語を正しく読み書きすることができる。(健・心・環) ・自分に合った学び方を習得し、漢字表記の文章を正しく読み書きすることができる。(健・心・環)
--------	---

流れ図⑦ 年間指導目標の達成のために必要な項目の設定

年間指導目標を達成するために必要な項目を自立活動の内容6区分27項目の中から選定します。選定する際は、指導すべき課題全てについてではなく、年間指導目標に関わるものだけを選びます。

流れ図⑧ 具体的指導内容の設定

⑦で選定した項目同士を関連付けて具体的な指導内容を設定します。設定に当たっては、主体的に取り組む指導内容、改善・克服の意欲を喚起する指導内容、発達の進んでいる側面を更に伸ばすような指導内容、自ら環境を整える指導内容、自己選択・自己決定を促す指導内容、自立活動を学ぶことの意義について考えさせるような指導内容などを踏まえて検討します。また、④で抽出した生徒の強みや長所を生かすような指導内容にすると、生徒の主体性や自己肯定感の高まりが期待できます。最後に、⑧の指導内容と⑦で選択した項目を線でつなげます。



特別支援教育
コーディネーター

マリさんが読み書きの困難を乗り越える方法を身に付けることを目指して、「環境の把握(3)」と「心理的な安定(3)」、「健康の保持(4)」を関連付け、タブレット端末を活用して分からない漢字を読んだり書いたりする方法を学習すると良いと思われます。

マリさんは中学校ではタブレット端末を使って学習しているので、良い方法だと思います。専門学校への進学を希望しており、卒業後にも読み書きする機会が多いと予想されますので、タブレット端末の様々な活用方法を身に付けさせたいですね。また、漢字や英単語の学び方を指導するので、通級による指導が効果的に行えるよう教科担当教員と連携しながら行っていきたいです。



通級指導担当教員

6区分	1 健康の保持	2 心理的な安定	3 人間関係の形成	4 環境の把握	5 身体の動き	6 コミュニケーション
(1)	生活のリズムや生活習慣の形成に関する事	情緒の安定に関する事	他者とのかかわりの基礎に関する事	保有する感覚の活用に関する事	姿勢と運動・動作の基本的技能に関する事	コミュニケーションの基礎的能力に関する事
(2)	病気の状態の理解と生活管理に関する事	状況の理解と変化への対応に関する事	他者の意図や感情の理解に関する事	感覚や認知の特性についての理解と対応に関する事	姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関する事	言語の受容と表出に関する事
(3)	身体各部の状態の理解と養護に関する事	障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関する事	自己の理解と行動の調整に関する事	感覚の保持及び代行手段の活用に関する事	日常生活に必要な基本動作に関する事	言語の形成と活用に関する事
(4)	障害の特性の理解と生活環境の調整に関する事		集団への参加の基礎に関する事	感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関する事	身体の移動能力に関する事	コミュニケーションの手段の選択と活用に関する事
(5)	健康状態の維持・改善に関する事			認知の行動の手がかりとなる概念の形成に関する事	作業に必要な動作と円滑な遂行に関する事	状況に応じたコミュニケーションに関する事

<p>指導内容 (週2回)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の全体の特徴を捉えた後、構成要素に分解したり再構成したりして漢字を正しく読み書きすることができるようにする。 → 指導例<イメージ20> 学級の授業で書いたノートを生徒と一緒に見直し、漢字が正しく使われるかを確認できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 注意すべき点を具体的に視覚化することで、綴りの構成要素に注目し、英単語を正しく書くことができるようにする。 → 指導例<イメージ21> 	<ul style="list-style-type: none"> タブレット端末を活用し、分からない漢字を読んだり書いたりする方法を習得できるようにする。 → 指導例<イメージ22>
-----------------------	--	---	--

流れ図⑨ 学級における配慮事項の検討

最後に⑨では、通常の学級における配慮事項について検討します。



ホームルーム担任

マリさんは書くことに困難があるので、板書を書き写すことに時間が掛かってしまいます。書き写すことだけで精一杯となってしまえば学習内容を理解できなくなってしまいます。教科学習での板書を書き写す量を減らしてはどうでしょうか。

マリさんにとって必要な配慮であると思います。その配慮を行うためには、「チョークで囲んだ大事なポイントだけ書き写す」等、マリさんや教科担任とルールを決めることが必要になりますね。課題の提出に関しても配慮が必要かと思われます。



通級指導担当教員

<p>学級における 配慮事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査ではルビ付きの用紙を使用する。 教科書の読めない漢字や英単語は教師が読み方を教えて、本人がルビを振るようにする。 「チョークで囲んだ所は大事なポイントなので、そこだけ書き写す」というルールを決め、書き写す文字の量を減らしたり、板書の写真をプリントして渡し、ノートに貼ったりできるようにする。 家庭で取り組む課題は、タブレット端末やパソコンを使って書き、印刷したものをノートに貼って提出することも認める。(どちらの方法で行うかは本人に選択させる。)
------------------------	--

話し合ったことを自立活動の「個別の指導計画」にまとめました。この作成した個別の指導計画を基に通級による指導を行っていきます。

自立活動の「個別の指導計画」

伊達杜高等学校

学年・番号	生徒氏名	ホームルーム担任	作成者
1年 C組 27番	通級 マリ	林	松本, 吉田
作成日	前期評価日	後期・学年末評価日	
令和〇年6月15日	令和〇年9月15日	令和△年2月15日	

生徒の願い	在学中	高校生活に慣れ、勉強したり、友達をつくったりしながら成長したい。
	卒業後	デザイン関係の仕事とパティシエに興味があるが、まだ悩んでいる。
保護者の願い	在学中	新しい環境に慣れ、楽しく学校生活を過ごしてほしい。
	卒業後	本人に合った職業や進学先を決定してほしい。
伸ばしたいこと 改善したいこと	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書にある分からない漢字にルビを振る、長い文章にスラッシュ(/)を引く等、習得した学び方を生かして文章を読むことができる。(健・環) ・友達の動きを模倣したり、完成図等を見て製作したりすることができる。(心・環) ・パソコンやタブレット端末の基本的な操作に慣れている。(心・環) ・全体の中から注目すべき場所を選択して見ることができるようになる。(心・環) ・学習に使用する漢字や英単語を理解し、語彙を増やす。(健・心・環) ・自分に合った学び方を習得し、漢字や英単語を正しく使って文章を書くことができる。(健・心・環) 	

年間指導目標	<p>(1)自分に合った学び方を習得し、中学校 1 年生程度の漢字、綴りの似た英単語を正しく読み書きすることができる。</p> <p>(2)タブレット端末の使い方を習得し、漢字表記の文章を正しく読み書きすることができる。</p>
--------	--

	1 健康の保持	2 心理的な安定	3 人間関係の形成	4 環境の把握	5 身体の動き	6 コミュニケーション
指導項目	1—(4)	2—(1) 2—(3)		4—(2) 4—(3) 4—(4) 4—(5)		

通級指導教室での指導内容	<p>(1)漢字の構成要素に注目し、漢字を正しく読み書きする。</p> <p>(2)綴りの構成要素に注目し、英単語を正しく読み書きする。</p> <p>(3)タブレット端末を活用し、漢字表記の文章を正しく読み書きできる方法を習得する。</p>
学級における配慮事項	<p>(1)定期考査ではルビ付きの用紙を使用する。</p> <p>(2)教科書の読めない漢字や英単語は教師が読み方を教えて、本人が振り仮名を付けるようにする。</p> <p>(3)「チョークで囲んだ所は大事なポイントなので、そこだけ書き写す」というルールを決め、書き写す文字の量を減らしたり、板書の写真をプリントして渡し、ノートに貼ったりできるようにする。</p> <p>(4)家庭で取り組む課題が多い時は、タブレット端末やパソコンを使って書き、印刷したものをノートに貼って提出することも認める。(どちらの方法で行うかは本人に選択させる。)</p>

		前期	後期	
指導目標		<ul style="list-style-type: none"> 漢字の構成要素を意識し, 中学校1年生程度の漢字を正しく読み書きすることができる。 英単語の綴りの構成要素を意識し, 英単語を正しく読むことができる。 タブレット端末を活用して, 漢字を正しく読み書きする方法に慣れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の構成要素に注目し, 中学校1年生程度の漢字を正しく読み書きすることができる。 英単語の綴りの構成要素を注目し, 英単語を正しく書くことができる。 タブレット端末を活用して, 漢字を正しく読み書きする方法を習得する。 	
	評価	通級指導教室	<div style="border: 1px solid black; background-color: #f8d7da; padding: 10px; display: inline-block;"> <p>➡ 通級による指導の評価等を記載した個別の指導計画は, 「5 評価と単位認定」(イメージ24~25)に掲載しています。</p> </div>	
		学級		
年間評価				
出席状況	出席	時間 / 授業時数	時間	
		出席	時間 / 授業時数	
		出席	時間 / 授業時数	

次年度に向けて	
---------	--

学習内容① 「漢字の構成要素に注目する学習」



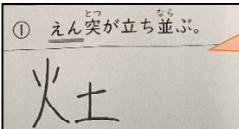
▶指導に当たって

- ・ **活動1・2** マリさんは漢字を全体像として捉え、細部まで注意して見ていないという特性があるため、漢字を部首等の構成要素に分解し、特徴を捉えられるようにする。その際、タブレット端末に撮った漢字を指で色分けしたり、漢字カードを切ったりと、物の操作を通して構成要素に注目させる。
- ・ **活動3** 活動1・2で分解した要素を漢字パズルとして組み立てる操作を通して、漢字の構成を認識できるようにする。
- ・ **活動4** 漢字の構成要素の一部を消したのを見て足りない部分を書くことで、構成要素を認識できるようにする。段階的に書く部分を増やし、漢字を覚えられるようにする。

▶本時のねらい

- ・ 漢字が構成する部首やパーツに注目し、構成要素を分解したり、再構成したりする。(健・心・環)

指導過程

段階	学習内容	指導上の留意点
導入	1.はじめの挨拶をする。 2.授業の流れを確認する。 3.本時の目標を決める。	・授業前に、生徒の表情や最近の出来事等、生徒の様子を確認し、学習に取り組む。 ・授業の流れを板書し、活動内容について見通しを持たせる。
展開	4. 活動1 タブレット端末で撮った漢字を見て、漢字の部首等に注目し、部分ごとに色分けをする。  T「この漢字の中に、知っている漢字や部首はありますか。」 S「火と西と・・・。」 T「この漢字を分けるとしたら、いくつに分けられそうですか。」 S「3つです。」 T「まともりごとに色分けしてみましょう。」 5. 活動2 漢字を構成要素ごとに分解する。 ・漢字カードを切って構成要素に分解する。 ・分解したパーツを使って部首を確認する。 6. 活動3 活動2でできた物を使用し、漢字パズルに取り組む。  7. 活動4 漢字の部分に注目し再構成する。  T「足りない部分を書いて漢字を完成させましょう。」	・生徒の未習得の漢字や教科の授業で使用している漢字等、学習で取り上げる漢字を生徒と相談して決める。 ・本時はタブレット端末に標準搭載しているメモアプリを使って学習したが、卒業後に進学を希望していることから、本人と相談の上、ノートアプリを活用する方法を徐々に身に付けさせていく。 ・必要に応じて、活動1で行ったパーツを色分けした漢字を見て確認したり、カードに線を引いたりする等の手立てを行う。 ・生徒が漢字の意味を理解していない場合は図や写真等を提示しながら読み方を確認したり、学習した漢字に関するテーマで話をしたりすることで、イメージしやすくする。 ・完成したら、活動1で行ったパーツを色分けした漢字を見て正しく構成できたかを確認したり、読み方を確認したりする。 ・「完成した漢字パズルを視写する」→「一部が不足した漢字を書く」→「漢字の読みを聞いて書く」等、生徒の習得に合わせて難易度を段階的に変え、理解へとつなげる。
終末	8.学習を振り返り、自己評価する。	・本時の生徒の頑張りを認め、次時への意欲喚起を行う。

学習内容② 「英単語の綴りの構成要素に注目する学習」






▶指導に当たって

- ・ **活動1** 中学校から引き継いだ「個別的教育指導計画」から「絵カードを手掛かりに英単語を理解することができた」というマリさんの強みを生かし、絵カードを手掛かりに英単語の綴りと読み方、意味を結びつけられるようにする。また、英単語の綴りを覚えるため、「make」の読みを「マケ」と読む等、綴りと発音が不規則な単語を誤って読んでいる。そこで綴りと発音が不規則な構成要素「ce」を持つ単語 (rice, face, voice) を取り上げることにした。
- ・ **活動2** 活動1の英単語を比較する活動を通して、英単語の綴りの構成要素「ce」に注目させ、「ス」と読むことを理解させる。
- ・ **活動3** 活動1, 2で取り上げた英単語を分解したり、分解したものを並べて単語にしたりと、カードの操作を通して綴りを覚えられるようにする。最初は、英単語カードを見本にパズルを完成することから始め、英単語の一部を隠す、カードを見ないで行う等、スモールステップで単語を理解させる。
- ・ **活動4** 覚えた単語の読み書きをし、学習を定着させるとともに理解度を確認する。

▶本時のねらい

- ・ 英単語の綴りに注目し、「ce」が「ス」と読むことを理解し、読むことができる。(心・環)
- ・ 「ce」が付いた英単語 (rice, face, voice) を書くことができる。(心・環)

指導過程

段階	学習内容	指導上の留意点
導入	1.はじめの挨拶をする。 2.授業の流れを確認する。 3.本時の目標を決める。	・前時に学習した英単語を復習しながら学習の見通しを持たせる。
展開	4. 活動1 英単語の読み方や意味を知る。 ・英単語カードを見ながらプリントに振り仮名を付け、発音する。  voice	・「ce」や「ch」、「ir」等、同じ綴りの部分がある英単語を集め、生徒に音韻と綴りのつながりを意識させながら理解できるようにする。 T「この単語は voice と書いて『ボイス』と読み、意味は声です。『ボイス〇〇』や『〇〇ボイス』といった『ボイス』が付く言葉を知っていますか？」 S「私のスマートフォンに『ボイスメモ』があります。」 T「それはどういうものですか？」 S「しゃべったことを録音できるものです。」 T「声をメモできるからボイスメモっていうのですね。」
	5. 活動2 英単語の綴りに注目しながら比較し、共通する部分に気付く。  rice  face  voice	・生徒がなかなか見付けることができない場合はカードの枚数を減らす、アルファベットに色を塗る等、綴りの構成要素に注目しやすくする。 T「この英単語の中に、すべてに共通する文字はありますか？」 S「『c』が同じです…。あ！『e』もです。」 T「そうですね。これらの単語には『ce』が入っていますね。この単語の中の『ce』は「ス」と読みます。」
	6. 活動3 英単語カードをアルファベットに分解し、パズルを作成する。その後アルファベット正しく並べて英単語を完成させる。 	・単語を覚えたら「教師と競争する」「生徒が先生役となり教師が並べたカードを採点する」等、遊びの要素を取り入れ、楽しみながら学習に取り組められるようにする。 T「私も、パズルをやってみたいです。今度はマリさんが先生になって合っているか確認してください。」 S「私が先生になるのですか。やってみます！」
	7. 活動4 覚えた英単語を用いて英文を読んだり書いたりする。	
終末	8.学習を振り返り、自己評価する。	・本時の活動で理解したことを今後の学習につなげられることを確認する。

学習内容③ 「タブレット端末を活用した文章を読み書きする学習」

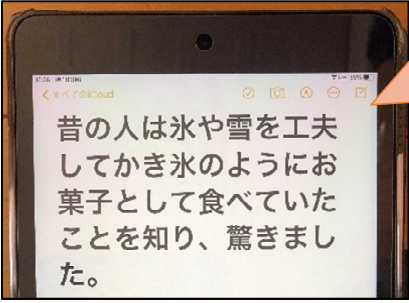
▶ 指導に当たって

- ・ **活動1** これまで読み方が分からない漢字については、教員に教えてもらってルビを振り、学習に取り組んできたが、タブレット端末の音声読み上げ機能を活用し、自分で読み方を調べる方法を身に付けさせる。マリさんはパティシエになりたいという夢があるため、題材を「アイスの歴史」とした。
- ・ **活動2** マリさんは漢字を思い出すまでに時間が掛かったり、間違えたりするが、自分の考えをしっかりと話すことができるというよさがある。そこでタブレット端末の音声を変換するアプリを活用して漢字を用いた文章で感じたことや考えたことを表現し、タブレット端末を見ながら手書きをする学習方法を身に付けさせる。
- ・ **活動3** 本時の活動を振り返りながら、今回学習した方法を生活に般化できる場面を検討させることで、積極的に活用しようとする態度を育てる。

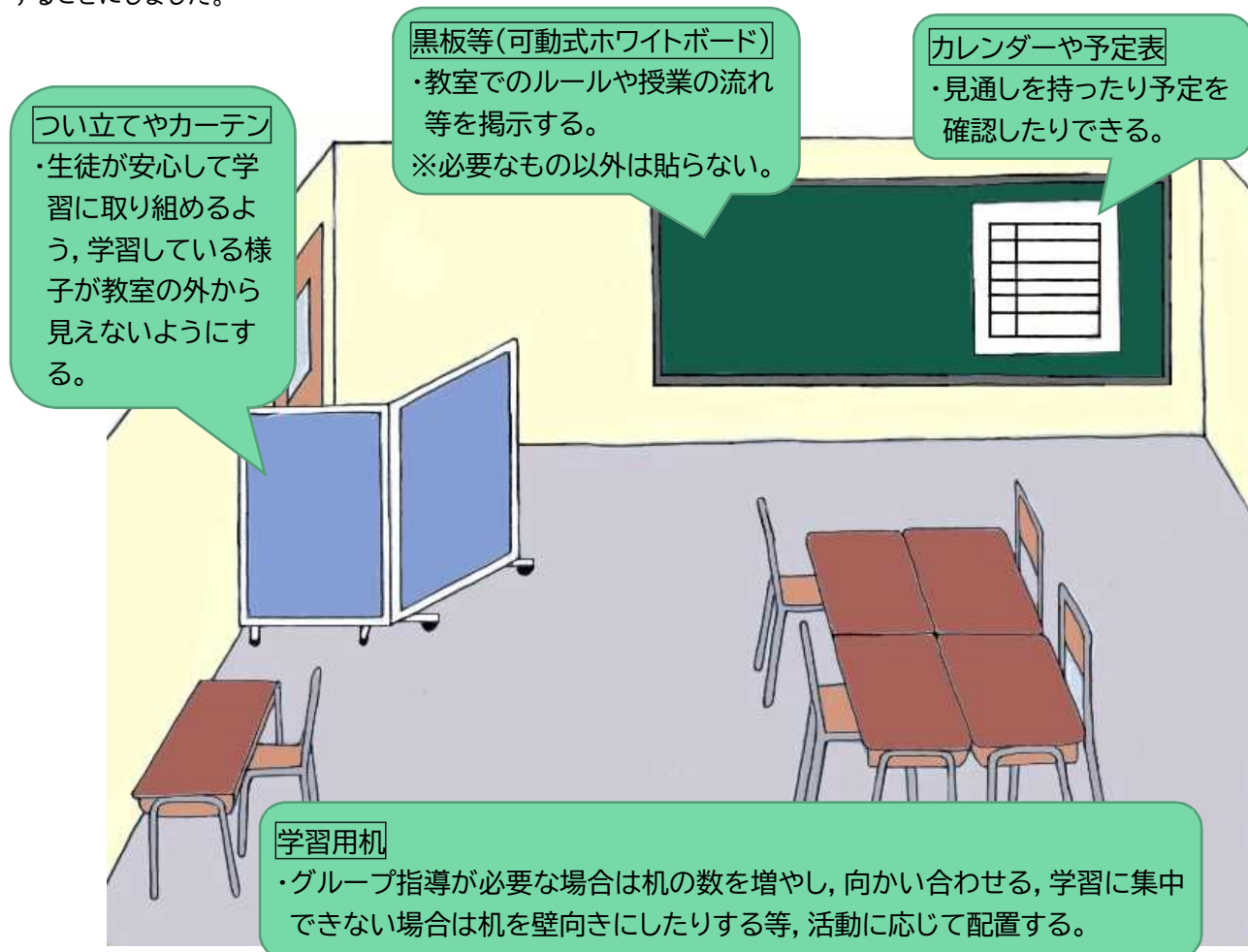
▶ 本時のねらい

- ・ タブレット端末を活用して、漢字表記の文章を正しく読み書きする方法を知る。(健・心・環)

指導過程

段階	学習内容	指導上の留意点
導入	1.はじめの挨拶をする。 2.授業の流れを確認する。 3.本時の目標を決める。	・授業の流れを板書し、活動内容について見通しを持たせる。
展開	4. 活動1 タブレット端末を活用して文章の漢字の読み方を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> アイスクリームの歴史 アイスクリームは昔、天然の氷や雪に乳製品や果汁をかけて食べることから始まりました。氷や雪は食品を腐敗させないため…… </div>	・タブレット端末のアプリの使い方を、写真を用いた手順表で示す。 <div style="border: 1px solid orange; border-radius: 15px; padding: 10px; background-color: #fff9e6;"> T「今日は『アイスの歴史』を読み、感想文を書いてみましょう。」 (生徒が文章を読み始めると…) S「『腐敗』って何て読むのですか？」 T「分からないときはどうやって調べますか？」 S「(少し考えて)パソコンとかタブレット端末を使うとできそうですが、方法はわかりません。」 T「それでは、タブレット端末を使って自分で読み方を確認してみましょう。」 </div>
	5. 活動2 タブレット端末の音声アプリを使用して、感想文を入力した後、タブレット端末を見ながら視写をする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">  </div>	・教師が手本を示して使い方を示す。 <div style="border: 1px solid orange; border-radius: 15px; padding: 10px; background-color: #fff9e6;"> T「『アイスクリームの歴史』の感想文を書きましょう。マリさんは文章を書くときに何か困った事がありますか？」 S「漢字をなかなか思い出せず、平仮名ばかりの文になってしまいます…。」 T「マリさんは自分の気持ちをしっかりと話すことができるので、音声アプリで漢字を使った文章を書いてみましょう。」 </div>
	6. 活動3 活動2の方法が使える時、使えない時を考える。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 40%;"> 使えるとき ・宿題 ・本を読むとき(読み方) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 40%;"> 使えないとき ・テスト </div> </div>	<div style="border: 1px solid orange; border-radius: 15px; padding: 10px; background-color: #fff9e6;"> T「タブレット端末を使って文章を書いた感想は？」 S「話した言葉が漢字で表されるので便利です。」 T「普段の生活で使えそうな場面はありますか？」 S「宿題をするときにも使えそう！」 T「やってみたら、感想を教えてください。」 </div>
終末	7.学習を振り返り、自己評価する。	・本時の生徒の頑張りを認め、次時への意欲喚起を行う。

伊達杜高等学校では、通級指導教室の設置場所について特別支援教育委員会で検討しました。マリさんの特性や自尊感情に配慮するため、教室の外からの音が入りにくく、他の生徒の目が届きにくい場所に設置することにしました。



マリさんの指導に関しては、机を複数用意して教師との距離感を意識した座席配置を行っています。今後、タブレット端末や学習したものを印刷できるプリンター等を準備していきます。マリさんと相談しながら、リラックスして学べる環境づくりを心掛けます。



通級指導担当教員

個々の生徒の特性に応じた環境や備品等を整備することが大切です。また、空き教室がない場合は学校事情によりますが、特別教室を使用する、生徒が使用しない時間に学校図書館を使用する、予約が入っていない日にカウンセリングルームで行う等、工夫が必要です。

～教室環境整備例～

- 口頭の指示だけでは理解するのが困難な生徒に、指示を視覚化する。
- 光や音に敏感な生徒に、教室を暗くしたり音を遮断したりする。
- つい立てやソファを設置し、気持ちを落ち着かせるクールダウンスペースとする。
- プリンタがあると、PC やタブレット端末を使った授業の際にすぐに印刷できる。
- レターケースに印刷したプリント類を入れておき、いつでも使えるようにしておく等。

[障害に応じた通級による指導の手引 解説と Q & A]より作成

前期と後期、通級による指導を行い、それぞれの指導目標に対するマリさんの達成状況を個別の指導計画に文章で記載し、評価しました。学年末の成績会議（単位認定会議）で、マリさんの通級による指導の単位認定について話し合いを行いました。

自立活動の「個別の指導計画」

伊達杜高等学校

学年・番号	生徒氏名	ホームルーム担任	作成者
1年 C組 27番	通級 マリ	林	松本, 吉田
作成日	前期評価日	後期・学年末評価日	
令和〇年6月15日	令和〇年9月15日	令和△年2月15日	

生徒の願い	在学中	高校生活に慣れ、勉強したり、友達をつくったりしながら成長したい。
	卒業後	デザイン関係の仕事とパティシエに興味があるが、まだ悩んでいる。
保護者の願い	在学中	新しい環境に慣れ、楽しく学校生活を過ごしてほしい。
	卒業後	本人に合った職業や進学先を決定してほしい。
伸ばしたいこと 改善したいこと	<ul style="list-style-type: none"> 教科書にある分からない漢字にルビを振る、長い文章にスラッシュ(/)を引く等、習得した学び方を生かして文章を読むことができる。(健・環) 友達の動きを模倣したり、完成図等を見て製作したりすることができる。(心・環) パソコンやタブレット端末の基本的な操作に慣れている。(心・環) 全体の中から注目すべき場所を選択して見るようになる。(心・環) 学習に使用する漢字や英単語を理解し、語彙を増やす。(健・心・環) 自分に合った学び方を習得し、漢字や英単語を正しく使って文章を書くことができる。(健・心・環) 	

年間指導目標	(1)自分に合った学び方を習得し、中学校 1 年生程度の漢字、綴りの似た英単語を正しく読み書きすることができる。 (2)タブレット端末の使い方を習得し、漢字表記の文章を正しく読み書きすることができる。
--------	---

	1 健康の保持	2 心理的な安定	3 人間関係の形成	4 環境の把握	5 身体の動き	6 コミュニケーション
指導項目	1—(4)	2—(1) 2—(3)		4—(2) 4—(3) 4—(4) 4—(5)		

通級指導教室での指導内容	(1)漢字の構成要素に注目し、漢字を正しく読み書きする。 (2)綴りの構成要素に注目し、英単語を正しく読み書きする。 (3)タブレット端末を活用し、漢字表記の文章を正しく読み書きできる方法を習得する。
学級における配慮事項	(1)定期考査ではルビ付きの用紙を使用する。 (2)教科書の読めない漢字や英単語は教師が読み方を教えて、本人が振り仮名を付けるようにする。 (3)「チョークで囲んだ所は大事なポイントなので、そこだけ書き写す」というルールを決め、書き写す文字の量を減らしたり、板書の写真をプリントして渡し、ノートに貼ったりできるようにする。 (4)家庭で取り組む課題が多い時は、タブレット端末やパソコンを使って書き、印刷したものをノートに貼って提出することも認める。(どちらの方法で行うかは本人に選択させる。)

		前期	後期
指導目標		<ul style="list-style-type: none"> 漢字の構成要素を意識し、中学校1年生程度の漢字を正しく読み書きすることができる。 英単語の綴りの構成要素を意識し、英単語を正しく読むことができる。 タブレット端末を活用して、漢字を正しく読み書きする方法に慣れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の構成要素に注目し、中学校1年生程度の漢字を正しく読み書きすることができる。 英単語の綴りの構成要素に注目し、英単語を正しく書くことができる。 タブレット端末を活用して、漢字を正しく読み書きする方法を習得する。
評価	通級指導教室	<ul style="list-style-type: none"> 夏休み明けから週2回放課後に指導を開始したが、休むことなく学習にも意欲的に取り組むことができた。 漢字の学習では、構成要素に注目する学習を積み重ねることで、複数の漢字から正しいもの選択し、書くことができた。 複数の英単語を比較し、「ce」や「ke」等の共通要素に気づき、英単語を正しく発音することができた。 タブレット端末の音声アプリの使い方を示した手順表を見て操作し、漢字表記の文章を読み書きすることができた。通級による指導で学習した方法を使って教科の宿題に取り組み、期日を守って提出できたと通級指導担当教員に嬉しそうに報告する回数が増えてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 冬季に体調不良で2時間欠課したが、それ以外は休むことなく、真面目に課題に取り組むことができた。 教科書から覚えたい漢字を自ら選択し、タブレットを活用して構成要素の細部まで注目して見ることができた。その構成要素を分解したり再構成したりする学習を重ねることで、漢字を正しく書ける漢字が増えた。 前期に学習したものに加え、「sh」「ge」「ir」等の共通要素を持つ単語を覚えることができた。 タブレット端末の音声アプリの使い方を覚え、手順表がなくても操作し、漢字の読み書きを調べ、漢字を正しく用いて文章を書くことができるようになった。
	通常の学級	<ul style="list-style-type: none"> 入学当初は主に学習面において強い不安を感じていたようであるが、通級による指導を受け始め、学校生活全般において表情が明るくなり、体調不良を訴えることが減った。また、課題も期日を守って提出することができるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> 前期は分からない漢字の読み方を教科担任に聞いてルビを振っていたが、タブレット端末を使って調べ、予習や課題に取り組むようになった。
年間評価		<ul style="list-style-type: none"> 後期に体調不良で2時間欠課した以外は休むことなく、意欲的に学習に取り組むことができた。 漢字の構成要素を分解したり、再構成したりする学習を通して、細部まで注意して読み書きするようになり、形の似た漢字を正しく読んだり視写する際に間違えることが少なくなった。 英単語の綴りと読み方が結びつくことで、「nice」や「make」等、既習の構成要素を持つ英単語を正しく読み書きすることができるようになった。 タブレット端末の活用方法を習得し、自分で分からない漢字を調べて課題に取り組む力が身に付いた。 	
出席状況		出席 11 時間 / 授業時数 11 時間	出席 30 時間 / 授業時数 32 時間
		出席 41 時間 / 授業時数 43 時間	

次年度に向けて	<p>本人は次年度も通級による指導を受けることを希望している。今年度は通級による指導を週2回放課後に実施していたが、家庭の事情から次年度は放課後の実施が難しく、通常の授業時間帯に行うため、より一層自尊感情に配慮しながら指導を行っていく必要がある。</p>
---------	---

通級指導担当教員やホームルーム担任は、マリさんの通級による指導の履修状況や年間指導目標から見た達成度等について説明をし、協議しました。教職員からマリさんの通級による指導の単位認定について理解が得られ、校長は単位の修得を認定しました。



校長

マリさんが通級による指導を受け、十分な成果が見られたことが分かりました。1年C組の通級マリさんは通級による指導を1単位修得したことを認定します。

2 具体的指導内容をイメージする

6 次年度の通級による指導に向けて

具体的指導内容をイメージする

夏休みに入り、ホームルーム担任は通級マリさんと保護者に対して、次年度の通級による指導について話をするために教育相談を実施しました。これまでの通級による指導を振り返り、通級による指導を受けて良かったことや困っていること等を話しました。教育相談でのマリさんと保護者の意見は以下のとおりでした。その後、マリさんの次年度の特別の教育課程について検討しました。

面談記録					
1年C組	通級 マリ	面談日	7月30日	ホームルーム担任	林
1 通級による指導を試行して 本人:漢字や英単語の学習方法が分かりやすく、覚えやすかった。 保護者:高校に入学した頃より表情が明るくなって安心した。					
2 次年度の通級による指導について 本人:進学に向け、更に勉強を頑張りたいので次年度も通級による指導を希望する。 1年生の時は放課後に通級による指導を行ったが、2年生では家庭の事情により放課後に受けることができない。 保護者:次年度も通級による指導を受けるかについては本人の意思を尊重したい。					
3 卒業後の進路について 本人:将来パティシエになりたいので、製菓の専門学校への進学を希望している。 保護者:本人と具体的な話をしていない。					

～伊達杜高等学校の2年生の教育課程(例)～

2 年 次	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
	世界史A	地理A	地学基礎 物理基礎	体育	保健	現代文B	古典A	数学II	コミュニケーション 英語II	英語表現I	音楽II 美術II	ビジネス 基礎	探究的 時間	LHR																

～マリさんの特別の教育課程(例)～

2 年 次	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
	世界史A	地理A	地学基礎 物理基礎	体育	保健	現代文B	古典A	数学II	コミュニケーション 英語II	英語表現I	音楽II 美術II	ビジネス 基礎	探究的 時間	LHR																

通常の教育課程の一部に「替える」場合、
いずれかの教科・科目と「替える」。

マリさんは通級による指導を2年生でも継続して受けることを希望しています。担当としても、次年度も通級による指導を週2回程度行うことが必要であると思われます。しかし、ご家庭の事情で放課後に通級による指導を受けることが難しいようです。



通級指導担当教員



教務主任

2年生になると必修以外の教科・科目もあるので、通級による指導に「替える」ことができます。その場合、「古典A」や「英語表現I」、「音楽II/美術II」、「ビジネス基礎」のいずれかを通級による指導に「替える」ことは可能です。

選択科目と「替える」場合、他の生徒も教室移動をしているので、自分だけが別の授業を受けるという抵抗感に配慮することができます。しかし、マリさんは美術部に所属していますので、もしかしたら、「美術Ⅱ」を履修したいと思っているかもしれません。マリさんと保護者に、通級による指導を「加える」か「替える」かについて、「替える」場合は何と「替える」のかについて確認する必要があります。



ホームルーム担任と通級指導担当教員はマリさんと再度教育相談を行い、通級による指導を「加える」場合と「替える」場合について具体的に説明をした後、マリさんの希望を確認しました。



通級 マリさん

自分だけ他の授業を受けることに少し心配はありますが、絵を描くことが好きなので、選択科目の「美術Ⅱ」は履修したいです。

マリさんは、2年生では「古典A」を通級による指導に「替える」ことにしました。その場合のマリさんの特別の教育課程は以下のとおりになります。「古典A」のように全員が履修する科目と「替える」場合、マリさん以外の生徒は「古典A」を受けることになり、マリさんだけが別の教室で通級による指導を受けることとなります。

通級による指導を受ける生徒自身が自分だけ別の授業を受けることや「古典A」の履修ができないことを理解し、納得した上で実施することが必要です。さらに選択科目と「替える」場合、「数学Ⅱ」のようにⅠ、Ⅱ、Ⅲが付いた科目の扱いには注意が必要です。「数学Ⅱ」を履修しなければ「数学Ⅲ」を履修することができないため、2年次においては3年次の選択を見通す必要があります。

～マリさんの2年次における特別の教育課程～

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
2年次	世界史A		地理A		地学基礎 物理基礎		体育 保健			現代文B		古典A 障害に応じた特別の指導		数学Ⅱ			コミュニケーション 英語Ⅱ		英語表現Ⅰ				音楽Ⅱ 美術Ⅱ		ビジネス基礎		探究の時間	LHR		

この後、マリさんと保護者の意思を文書（希望調査用紙）で確認し、次年度の通級による指導の実施や特別の教育課程について合意を図りました。

マリさんのケースではスムーズに合意が図られましたが、親子での話し合いが十分にされていない場合、考えが異なったりすることから合意形成がスムーズにいかない場合もあります。その場合には、状況に応じて支援を行います。

